

Business & Handicapped

企業×福祉×教育×行政をつなぐ 障がい者雇用 情報紙



6
Jun.
2017



「無題」
詳細は裏面▶

今月の Leading company 障がい者雇用の先進企業紹介



梶田さんは事故で右上肢が不自由。その後フォークリフト運転技能講習を受講し活躍中。

ここで活躍する障がい者は精神障がい者1名、知的障がい者2名、身体障がい者3名の計6名。自らのもつ力を最大限に活かせる部署を話し合いなども交えて決定し、一般社員に混じって活躍しています。

同社が障がい者雇用を改めて着目し始めたのはこの10年ほど。その中心となっていたのが、12年前に銀行を退職し、同社に転職した総務部門部長の額さんです。企業の成長に伴って社員が増員する中、高いトータルクオリティマネジメント力をもつ組織づくりの一環として、障がい者雇用の環境づくりを進めてきました。

大正15年に創業以来、非鉄金属ダイカスト製造のパイオニアとして歴史を築いてきたダイキャスト東和産業株式会社。現在、多治見と恵那に工場を展開し、約三百十名の従業員で月に六百万個ほどの製品を生み出しています。

障がい者雇用は
企業のトータル力も上げる

障がい者雇用が、社員一人ひとりの意識改革に

ダイキャスト東和産業株式会社 多治見市 障がい者雇用数6名

障がい者雇用を進める中、社員同士のコミュニケーションもより円滑になったと感じます。こうした流れの中で、組織の指示系統もはっきりしてきましたし、組織力自体も高まったと感じます。

健常者も障がい者も、こちらが心を開けば相手も心を開いてくれます。本音を言いやすい、相談しやすい環境づくりに努めてきました。こうした風潮が、社員全体の定着率向上にもつながっていると 생각합니다。」

(裏面へ続く)

より円滑になった 社内のコミュニケーション

「私が入社してきたころは、障がい者であっても障害者手帳を持たない社員もいたので、まずは手帳を取得するところからスタートしました。こうした認定があれば、企業として残業などに配慮することもできますし、公表することでほかの社員もそれを理解することができ、社員全員が不平等感なく働ける環境づくりは大切だと思います。」



「障がい者雇用が定着してからは、現場からさまざまな声が入ってくるようになってきた」と話す額さん。



プレスマンのオペレーターとして活躍する紀藤さん。
帽子についた汚れが、目々のがんばりを表しています。

**現場長の理解を得て
長期で働ける環境づくりを**

ダイキャスト東和産業では多品種少量生産を特長にしていることもあり、部署や業務内容も多岐に渡ります。こうした中で障がい者の配属をどう決めているのか、そのプロセスも瀬瀬さんに伺いました。

「障がい者雇用を推進するには、経営者はもちろん、現場の課長や係長クラスの理解を得ることが重要になってきます。現場からは、慣れないことに対して難色を示されたこともありましたが、『こうした人の管理は、長としての重要な仕事のひとつであり、それが会社の成長もつながる』ことを理解してもらえようように話し合いを重ねました。

障がい者自身とも話し合い、個人の特性や長所を最大限に活かせる部署に配置しています。働いていただくからには、定年までがんばっていただきたいですからね。

最初から上手くいった訳ではありませんが、試行錯誤した結果、現在では潤滑に現場がまわっていると思います。」

何でも相談し合え、お互いが信頼できる環境づくりは、同社の組織自体をより強固なものにしているようです。

「12年くらいこの会社に勤めています。ここは何か問題が起きてても、上司に言いたいことが言えるのがいいです。お互いがわからないままだと、不安になってしまうからこう話すのは、知的障がいがある中村さん。てんかんの症状がある紀藤さんは、入社してから障害者手帳を取得した一人。「上司が言ってくれた、肩肘をはらずに働いていけばいいんだよ」という言葉が嬉しかったです」

また、右上肢に障がいのある梶田さんは「いろんな仕事に挑戦させてもらえるのがいいですね。休日も気の合う仲間と釣りに出かけたりと、仲が良いです。皆で支え合っている感じはありますね」と明るく話します。

実際のお仕事の現場取材させていただき写真撮影をお願いしても、どの部署も明るい雰囲気。

「本音をぶつけることで信頼に。何でも言い合えるのがいい。」



中村さんの仕事は製品を出荷箱に詰め替える作業。
勤務時間も、一般従業員と同様です。

SCHEDULE スケジュール



働く障がい者セミナー(関)

定着を目標に、障がい者向けのセミナーを行います。県内5つの地域で毎月1回、年間計12回開催。思いを共有します。

6/24(土) 10:00~11:30 わかくさ・プラザ

情報交換会(郡上)

現場ならではの障がい者雇用のアイデアを共有します。「臨床心理士」千田若菜氏の講演後、千田氏と雇用支援専門家も交え、グループワークを開催。新たな発見も生まれるかもしれません!

7/5(水) 14:00~16:30 郡上市総合文化センター

※スケジュールは変更になる事があります。

Art & Handicapped

表紙では、毎月障がい者のアートを紹介しています。今月の作品は、2014年のアールブリュット美濃展に展示された作品です。障がい者の方がチームで協力して制作しました。



国際陶磁器フェスティバル美濃'17
アールブリュット美濃展
2017年
9/15(金)~10/22(日)
多治見市 セラミックパークMINO

東濃地方で生活している障がいを持った方達が、やきもの、絵画、書などいろいろな素材・技法を通して、衝動のままに表現したたくさんの作品による展覧会を実施します。

国際陶磁器フェスティバル美濃実行委員会 TEL:0572-25-4111
<http://www.icfmino.com/>



岐阜県障がい者雇用企業支援センター

〒500-8384 岐阜市藪田南5-14-12 シンクタンク庁舎2階
・岐阜駅から-岐阜バスで約20分「ふれあい福寿会館前」下車
・西岐阜駅から-くるくるバスで約12分「県民ふれあい会館前」下車
利用時間 月~金 9:00~18:00(祝日・年末年始は除く)

岐阜県障がい者雇用企業支援センターは、岐阜県が委託により運営する企業の皆様の障がい者雇用を支援するセンターです。



TEL: **058-215-0582**
FAX: **058-215-0583**

E-mail center@shougaiigyoshien.jp
URL <http://www.shougaiigyoshien.jp>